

## “技術士を目指し、共に迷い、共に歩み、報われる努力！”

### 第 20 期 PE 道場受講者の募集

～おかげさまで開始から 20 年目となりました～

技術者の技術力向上を目的に、PE (Professional Engineer 技術士) 道場を平成 18 年度から実施し、その結果として、**19 年間**で PE 道場から延べ **53 名**の技術士を輩出することができました。現在行っている第 19 期における筆記合格者は 1 名であり、口頭試験に向けて指導を行っているところです。

この受験講座は、技術士第二次試験の合格を**本気で**目指す技術者（建設会社、コンサルタント、公務員、年齢等は問いません。）を支援するために開講します。

< 試験制度の概要 > ※2019 年より試験の方法が変わりました。下の表のとおりです。

< 筆記試験(総合技術監理部門を除く技術部門) >

試験科目	改正前 <～平成 30 年度>				改正後 <平成 31 (2019) 年度～>			
	問題の種類	試験方法	試験時間	配点	問題の種類	試験方法	試験時間	配点
必須科目	「技術部門」全般にわたる専門知識	択一式 20 問出題 15 問解答	1 時間 30 分	30 点	「技術部門」全般にわたる専門知識、 <u>応用能力</u> 、 <u>問題解決能力</u> 及び <u>課題遂行能力</u> に関するもの	<u>記述式</u>  出題数は 2 問程度 600 字詰用紙 3 枚以内	2 時間	40 点
選択科目	「選択科目」に関する専門知識及び応用能力	記述式 出題数は回答数の 2 倍程度 600 字詰用紙 4 枚以内	2 時間	40 点	「選択科目」についての専門知識及び <u>応用能力</u> に関するもの	記述式 出題数は回答数の 2 倍程度 600 字詰用紙 3 枚以内	3 時間	30 点
	「選択科目」に関する課題解決能力	記述式 出題数は 2 問程度 600 字詰用紙 3 枚以内	2 時間	40 点	「選択科目」についての <u>問題解決能力</u> 及び <u>課題遂行能力</u> に関するもの	記述式 出題数は 2 問程度 600 字詰用紙 3 枚以内	30 分	30 点

※総合技術監理部門については変更無し

主 催 : NPO 法人技術交流フォーラム

資 格 : 技術士第二次試験受験資格を有するもの  
(一次試験合格者で資格要件に該当する実務経験を有する者)

“必ず合格してやる！”という思いを有するもの

2 回か 3 回目で合格すればいいとお思いの方はご遠慮ください。

内 容 : 『総合技術監理部門を除く技術部門』を対象とし、以下の項目を実施します。

- ◆ オリエンテーション、経歴書の書き方、国土交通白書の見方

- ◆ 論文の書き方の基本、選択科目対策（論文作成とグループ討議）
  - ・実施予定期間は、11月～翌年7月までです。
  - ・受講者が決まり次第、11月にオリエンテーションを実施し、6月に模擬試験を行います。
  - ・論文添削指導は、グループ討議の他に、担当講師や受講生間とのメールなどにより、講師と受講生が納得のいくまで繰り返し実施する方法です。（添削回数：無制限）
- ◆ 受講生に沿った支援（2コース）をご用意しました。
  - ・Aコース（受験回数が複数回）：毎月1回（※第2土曜日）、計9回
  - ・Bコース（未経験者、希望者）：毎月2回（※第2・4土曜日）、計14回※別紙1「PE道場タイムスケジュール（案）」を参照して下さい。  
※原則、第2と第4ですが、変わる場合があります。

募集定数：先着6名程度（定数になりましたら募集を打ち切ります。）

指導者：技術士保有者から適宜依頼し、指導方針についての協議のうえ選定しております。

勉強日：土曜日（10：00～16：00）を想定しております。  
詳細は、オリエンテーション時にご説明いたします。

場 所：zoomによるリモートと佐賀市内の会場による対面です。スケジュールをご参照ください。

受講費：

- ◆ Aコース（受験回数が複数回）：5万円（NPO法人技術交流フォーラム会員及び賛助会員：3万円）
- ◆ Bコース（未経験者、希望者）：7万円（NPO法人技術交流フォーラム会員及び賛助会員：4万円）

応 募：希望者は、11月15日(金) 17：00までに、下記の連絡先にメールして下さい。  
必要書類を返信します。

連絡先：研修委員長 福岡 仁 メール：fukuoka@sinwa-consultant.jp Tel：0952-32-1348、Fax：0952-36-6681 ((株)親和コンサルタント 佐賀市卸本町7番25号)
--

第1回の道場にて、小論文（1,200文字以内）を執筆していただきます。

この目的は、受講者の現状を講師陣が把握するためであり、円滑な支援を行うための基礎資料として活用します。そして、その結果から個別に受講コースなどの相談をさせていただくことがあります。

## P E 道場タイムスケジュール (案)

別表-1.1 予定表 (オリエンテーション～筆記試験まで)

	試験スケジュール	A コース	B コース
11月		オリエンテーション (11/23) ※zoom リモート <b>第1回 (11/30) ※対面</b> 論文の書き方 (文章作法、骨子法など) 講師との経歴について議論 (経歴書の書き方、経歴の棚卸し) など 小論文作成 (1200字)	
12月		第2回 (12/14) ※zoom リモート 経歴書に関する内容討議 過去問題の傾向分析と勉強方法の確認、キーワード学習	
			第2'回 (12/21) ※zoom リモート 経歴書に関する内容討議 論文の書き方 (文章作法など)
1月		<b>第3回 (1/11) ※対面</b> 発想法 (マインドマップ、KJ法) の習得、キーワード学習 経歴書に関する内容討議 専門 (基礎、応用) ① グループ討議	
			<b>第3'回 (1/25) ※対面</b> 専門 (基礎、応用) ②グループ討議 経歴書に関する内容討議 発想法の実践
2月		第4回 (2/8) ※zoom リモート 専門 (基礎、応用) ③グループ討議 発想法から指定時間で書く練習① 必須① グループ討議	
			第4'回 (2/22) ※zoom リモート 専門 (基礎、応用) ④グループ討議 発想法→書く練習② 必須② グループ討議
3月		<b>第5回 (3/8) ※対面 (モチベーション維持対策①)</b> 経験論文の最終チェック 必須① グループ討議 専門 (基礎、応用) ⑤グループ討議 発想法から指定時間で書く練習③	
			<b>第5'回 (3/22) ※対面</b> 経験論文の最終チェック 必須① グループ討議 専門 (基礎、応用) ⑤グループ討議 発想法から指定時間で書く練習④
4月	【受験申込受付期間】 4月上旬より	第6回 (4/12) ※zoom リモート 必須および専門 (課題解決) ① 論文の添削を踏まえたグループ討議および指導 発想法から指定時間で書く練習⑤	
			第6'回 (4/26) ※zoom リモート 必須および専門 (課題解決) ② 論文構成の再チェック 発想法から指定時間で書く練習⑥

別表-1.2 予定表（筆記試験～口頭試験まで）

	試験スケジュール	A コース	B コース
5月		<b>第7回（5/10）※対面（モチベーション維持対策②）</b> 📌 必須および専門（課題解決）③ グループ討議 ・ ・ ・ 論文の添削を踏まえたグループ討議および指導	
			<b>第7回（5/24）※対面</b> 📌 必須および専門（課題解決）④ 📌 論文構成の再チェック
6月		<b>第7回（6/7）※対面（モチベーション維持対策③）</b> 📌 模擬試験（筆記試験） ※本番と同じ時間割での想定問題を実施	
		<b>第8回（6/21）※対面</b> 📌 模擬試験に対するグループ討議 📌 試験当日まで2週間の過ごし方	
7月	<b>【筆記試験】</b> 7月13日（予想）		
8月			
9月			
10月	筆記試験合格発表		
11月		模擬試験（口頭試験）：合格者対象 📌 想定問答作成支援 📌 個別の模擬面接試験（2回）	
12月	口頭試験	< 質疑の情報共有 >	

※記載内容は予定であり、受講生のレベルや人数などにより、変更の可能性があります。

※添削指導は、PE 道場開始と同時に随時実施します。

※受講者は、筆記試験の結果を報告していただきます。また、二次試験合格者の方には合格体験記を提出していただきます。

## PE 道場受講者 合格体験記

**【佐賀県内の団体職員 I さん（46 歳女性）（農業土木）】（令和 4 年度合格）**

数年前から二次試験を受けないと思いつつ、実務経験証明書の書き方が分からず断念しておりました。昨年、会社から「PE 道場を受講して、二次試験を受けてみないか」と声をかけていただき、受講することになりました。

最初は課題と問題点の違いが分からないところから始めたため、実務経験証明書、論文ともに多くのご指導・ご助言をいただきました。毎回こんなに落ち込むことがあるのかと思うほど落ち込みましたが、今のレベルを超えないと試験には合格できないと思って論文の修正と新しい課題に打ち込む日々でした。おかげで、色々な考え方、論文構成、論文を回答する順番などを学ぶことができました。また、PE 道場には他の受験生がいるのでそれが刺激となり、モチベーションを保つことができましたと思います。

論文試験では、正直落ちたと思えました。I については時間の余裕もあり、想定どおりに回答できました。しかし、III についてはある程度書きましたが、誤字もあり、回答内容が自分的に微妙でした。II については時間が足りず、納得のいくレベルではありませんでしたが、空白を埋めるために必死に書きました。そのような出来でしたので、合格発表の日は嫌々確認しました。

このように本人の認識とは全く違うパターンもありますので、どんな出来でも論文の復元だけは必ずすることをお勧めします。

まさか口頭試験にすすむとっていなかったもので、口頭試験の準備は全くしていませんでした。不安がつりますが、時間の猶予は 1 カ月程度しかありません。そこからはバタバタと口頭試験の準備を行いました。模擬口頭試験を複数回講師の先生方にしていただき、内容の修正、目の動き、無駄に動かしてしまう手など、指導を受けました。

当日は緊張しましたが、模擬試験での指摘を思い出し口頭試験を受けた結果、無事に合格することができました。

最後に、PE 道場を受けていなければ合格することはできなかったと思います。色々、ご指導をいただきました講師の先生方に深く感謝申し上げます。そして、受験される皆様、勉強する中で気分が下がることもあるかと思いますが、皆が通る道ですので、前を向いて頑張ってください。

**【元佐賀県庁職員（現：佐賀県外の建設コンサルタント） O さん（62 歳男性）（道路）】  
（令和 5 年度合格）**

令和 3 年度一次試験に合格後、二次試験に向けて過去問に取り組んでみましたが、全く筆が動かず、翌年の二次試験受験は見送りました。初めの半年間は日経コンストラクションやインターネット上のガチンコ技術学園などから情報を収集しましたが、どのようにまとめればよいのか途方に暮れていました。

そこで、技術士を取得された先輩に相談したところ、PE 道場を紹介され、第 18 期 PE 道場を受講することになりました。

PE 道場では、論文の書き方や二次試験の出題傾向などの情報を詳細に提供していただきましたので、これを土台として、新技術開発センターの解答事例集や技術士試験合格講座の模範解答などを参考に出題が想定される分野を絞り込み、論文を準備することができました。

<筆記試験>

必須科目 I および選択科目 III は、防災・減災（国土強靱化）、維持管理・更新、担い手の確保（生産性の向

上)、選択科目Ⅱ-1は、道路構造令からの出題、選択科目Ⅱ-2は生活道路の交通安全対策、道路の物流機能の強化、自転車の活用促進について論文を作成し、講師の皆様にご指導・ご助言をいただきながらブラッシュアップに努めました。

実際の試験では、必須科目Ⅰおよび選択科目Ⅲは想定していたメンテナンスと交通安全が出題されましたが、選択科目Ⅱ-2が全く想定していなかった高架橋架設工事の施工計画であったため合格は難しいと考え、来年の筆記試験に向けて気持ちを切り替えていました。

<口頭試験>

幸運にも筆記試験に合格できましたが、口頭試験までの準備期間は1ヶ月程度でした。実務経験証明書・口頭試問ペア事例集なども参考に準備しましたが、やはり、模擬試験を重ねることで、制約された時間の中でも何とか対応できるようになり、多少の自信をもって口頭試験に臨むことができました。口頭試験本番は緊張しましたが、想定していたこれまでの経験の中でのコンピテンシーに関する質問の外に厳しい質問もなく、和やかに終わることができましたと感じました。これも、PE道場で実務経験証明書や業務内容の詳細論文を徹底的にご指導・ご助言いただいた賜物にほかならないと感謝しております。

<最後に>

PE道場で受講していなければ合格はできなかったと思います。ご指導・ご助言をいただきました講師の皆様改めて深く感謝申し上げます。

## 【長崎県内の建設コンサルタント技術者 Mさん(42歳男性)(応用理学)】(令和5年度合格)

### (1) 受験動機

初めての第二次試験受験では、「この試験に自分が合格できるのか?!」という感想しかありませんでした。そのような私が、なぜ技術士を目指したかという、いくつかありますが、技術士以外の資格(RCCMなど)をある程度取得し、少し自信がついてきたからでした。

### (2) PE道場を受講するまでの勉強

私が勉強を開始したのは平成30年度でした。平成30年度は、ある技術士講座を受講しました。講座の指導内容は、誤字脱字程度の添削と、リモートによる1時間の講義(そのうち半分以上が講師の自慢話)でした。私はこの講座の受講を後悔しました。令和元年度以降は、参考書やインターネットを利用して、独学で勉強しました。結果は、必須科目Ⅰと選択科目ⅢでA判定or B判定、選択科目Ⅱで知識量不足などからC判定ばかりでした。

### (3) PE道場へ参加して

PE道場に参加して、まず指摘されたことは「受験部門」の選定でした。私はPE道場に参加するまで建設部門を受験していましたが、これまでの業務経験から「応用理学部門(地質)」(以降、応用理学)への変更を提案されました。私は、応用理学が自分の経験に近い部門と判断して、応用理学を受験することに決めました。

PE道場で最初に行ったことは、応用理学が初めての受験であったこともあり、得意・不得意分野の把握や問題の出題パターンなどを分析し、勉強の優先度を定めることでした。6月の模擬試験では悔しい思いをしましたが、この結果に一喜一憂せず、残りの時間で合格できる最善策を考えました。口頭試験対策では、講師の方々に臨場感のある模擬試験会場を設けて頂き、本番と同様の緊張感を体験させて頂きました。この対策のおかげで、程よい緊張感で試験に臨むことが出来ました。

PE道場に参加して良かった点は色々ありますが、特に「①申込書の書き方の指導」「②短いレスポンスで、複数人からの添削指導」「③臨場感のある口頭模擬試験」と感じました。

### (4) 筆記試験、口頭試験

筆記試験では、体調管理に気を付けていたものの、前日に食中毒を起こしてしまい、ほとんど眠れていない状態での受験でした。しかし、約1年間勉強した努力や講師の方々のご指導を無駄にしたくないという思いから、受験に臨みました。

口頭試験は、筆記試験の合格発表後に対策を開始しました。今思えば、もう少し早めに開始しておけば良かったと反省しております。というのが、筆記試験の合格が決まってから、業務が忙しくなったため、対策時間が少なくなったためです。それでも可能な限り時間を作って対策を行いました。

#### (5) 最後に

技術士の受験で大事なことは、「諦めないこと」と思いました。受験する多くの人は、受験勉強で、思うようにいかないことや、苦しいことなど困難なことがあると思います。技術士試験は、そのような中で、現状を分析して、評価し、改善するなどして乗り越えることが必要だと感じました。

最後に、約1年間、お忙しい中、ご指導頂きました講師の皆様、また共に勉強した受講生の皆様に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

### 【佐賀県内の建設コンサルタント技術者 Eさん (39歳男性) (森林土木)】(令和5年度合格)

私は県の臨時的任用職員として3年間勤め、建設コンサルタント会社に転職しました。

技術士を意識したのは、転職する際に前職の上司である技術士から、「技術士を目指しなさい」という言葉を受けたからです。転職後1年目に技術士補を取得し、5年を経て2次試験に初挑戦しました。

まずは過去問と市販の対策本を読みましたが、実力・経験不足のため、全く合格までの道筋が見えませんでした。そこで、一念発起してPE道場に入門し、最短での合格を目指しました。PE道場ではAコースを受講し、月2回、詳述論文の添削などを受けましたが、毎回知識不足や論文構成の稚拙さを痛感しました。しかし、講師の方々から多角的なご指導を受けたことや、試験情報や最新技術を学んだことで、合格に向けて正しい方向に歩むことができました。

PE道場では他分野の受講生と一緒に受講するため、自分の専門分野以外の知識や考え方を同時に学ぶことができます。これは一般の講座にはない形式であり、短期間で多角的な視点を持つことに繋がったと強く感じます。また、同期の受講生や講師の方々とは、道場以外でも情報交換や業務の相談などを行っています。このような繋がりを持てたことがPE道場での一番の財産です。

PE道場を受講しなければ、間違いなく何年経っても合格できませんでした。ご多忙の中、実務経験証明書や論文・面接対策に熱心に指導して下さった講師の皆様には深く感謝申し上げます。

### 【長崎県内の建設コンサルタント技術者 Tさん (37歳男性) (河川砂防)】(令和5年度合格)

#### [受講の経緯]

私が所属する会社には、応用理学部門(地質)の先輩技術士が数人いましたが、建設部門(河川、砂防及び海岸・海洋)の技術士がいなかったため本部門の受験を決意しました。しかし、いわゆる記念受験が続き判定は良くてB判定という状況でした。その当時、勉強の仕方がわからなかったこともありますが、何より仕事を理由に机に向かわなかったこと、先輩技術士ですら本部門に合格していないというハードルを勝手に引いてしまっていたこと、その二つが合格に近づけなかった原因だと思います。

そのような現状が続く中、私の部署の先輩がPE道場に通い始め、合格に一步一步近づいているのを間近で感じたため、私も受講を決意し2020年度の試験に向けたタイミングで参加させていただきました。

その結果、2020年度に初めて筆記試験に合格することができました。口頭試験は諸事情で受験できなかったのですが、PE道場で学んだ経験を継続したことで2023年度に正式に合格することができました。

ここで、私がPE道場で培ったことを以下に紹介させていただきます。

### [キーワード・情報収集]

今までは、国土交通白書を試験前に流し読みする程度で、内容に対して深く理解していませんでした。しかし、PE 道場では講師の方々から様々な情報を提供していただけるだけでなく、受講生自体も情報を提供し合い、共有する環境がありました。そのため、1 人では収集できない量の情報を手に入れることができたため、論文作成に大いに役立ちました。また私自身も、国交省のホームページや日経コンストラクションなどで気になったワードを調べて、技術ノートにまとめる癖ができました。

筆記試験では、いかに採点者の目に留まるキーワードを多く入れ、かつ他の受験者と差別化できるかが重要だと思うので、この小さな積み重ねが活きたと自負しています。

### [繰り返しの論文添削]

PE 道場では、過去問や予想問題を基に、論文作成→講師の方々の添削→論文再考を繰り返し行っていました。論文の添削依頼に対して、講師の方々のレスポンスが非常に早く、補足の情報提供もいただけたため、とても参考になりました。受講会場に集まる日には、論文の読み合いを行うため、自分が使わないような言い回しを学べる機会でもありました。

PE 道場では、講師の方々自体が別部門・分野の技術士を目指されていることもあり、近年の動向を踏まえた予想問題作成や添削をしていただいていたので説得力が違いました。

### [マインドマップの作成]

論文作成にあたり、構成に関する指導もいただきましたが、私の中ではマインドマップの作成が最も試験の合格に繋がったと考えています。PE 道場では、防災や維持管理、DX などの大きなテーマから、キーワードを波及させてマインドマップを作成し、意見交換を行いながら完成させました。

万全の準備をしていたとしても、問題が想定と違うと頭が真っ白になると思いますが、作成したマインドマップが頭の中にあっただけのため、キーワードを組み合わせて焦ることなく論文を書くことができました。

### [最後に]

上記した内容はあくまで一部で、たくさんの方々のことを PE 道場で学ぶことができました。

PE 道場は、講師の方々の熱意があり、かつ的確な指導をしていただきました。また何より受講生自体のモチベーションも高いため、受講し始めから筆記試験が終わるまで途切れることなく集中力を維持することができました。“みんなで頑張ろう”という PE 道場の空気感に背中を押されて私も合格できたと思っています。

最後になりますが、講師の方々には仕事や家族との予定があるにも関わらず、熱心に指導をしていただき本当に感謝しかありません。今後、指導いただいた経験を後進に伝えていくとともに、私自身技術士として恥じないよう研鑽を続けていこうと思います。

本当にありがとうございました。